

口腔粘膜病変の新しい概念

Potentially Malignant Disorders (PMDs) について

【講師メッセージ】

近年、PMDs (Potentially malignant disorders) という概念が提唱された。本概念は、将来口腔がんに移行する可能性を持つ疾患の総称である。

かつてWHOでは、臨床的な前癌病変に対する組織学的分類として、1) 扁平上皮性異形成、2) 扁平上皮内癌 (CIS) を挙げた。一方、浸潤癌に進展するdysplasiaを含めて扁平上皮内腫瘍 (squamous intraepithelial neoplasia, SIN) という概念も提唱されている。

2010年発刊の口腔癌取扱規約では、mildとmoderate dysplasia (WHO) を口腔上皮性異形成 (oral epithelial dysplasia, OED) と定義し、severe dysplasia (WHO) を口腔扁平上皮内腫瘍 (oral intraepithelial neoplasia, OIN) /CINとした。しかし、上皮性異形成症のすべてが癌化するわけでもないため、口腔扁平上皮に発症する病変の診断は極めてtrickyであるとともに、正常とOED、OEDとOIN/CISの正確な鑑別は困難である。

われわれは、これまでさまざまな口腔病変におけるNucleus accumbens-associated protein 1 (NAC 1) の発現を検討してきた。その結果、NAC 1はOEDとCISの鑑別マーカーとして有用であることがわかった。

一方、HPV16、18とp16がOEDの鑑別マーカーとなることも明らかとなった。

本セミナーでは、PMDsのさまざまな臨床像 (診断と治療) と細胞判定法、さらにOED、CIS等の鑑別マーカーの詳細を紹介する。本セミナーの受講により、多くの先生方が口腔粘膜疾患に興味を抱いていただくことを望みます。



【略歴】

1989年3月 福岡歯科大学卒
1989年4月 福岡歯科大学大学院 (口腔解剖学専攻)
1990年9月 長崎大学歯学部附属病院第2口腔外科学科研修医
1991年4月 長崎大学歯学部口腔外科学第2講座助手
1999年9月 長崎大学歯学部附属病院第2口腔外科講師
2002年4月 長崎大学大学院講師 (医歯薬学総合研究科
発生分化機能再建学講座・顎口腔機能再建学分野)
2003年10月 長崎大学医学部・歯学部附属病院検査部歯科分室副室長
2005年7月 長崎大学医学部・歯学部附属病院経営企画部副部長
2006年9月-2007年5月 スウェーデンUmeå大学顎顔面口腔外科客員教授
2007年6月 島根大学医学部歯科口腔外科学講座教授
2013年4月 モンゴル健康科学大学客員教授現在にいたる

【資格】日本口腔外科学会専門医・日本臨床細胞学会細胞診専門医・臨床修練指導歯科医 2004
日本口腔外科学会指導医・日本顎顔面インプラント学会指導医・日本がん治療認定
医機構 暫定教育医・日本顎顔面インプラント学会専門医・日本がん治療認定医
機構 がん治療認定医 (歯科口腔外科) 国際顎顔面口腔外科専門医 (FIBCSOMS)
日本口腔インプラント学会指導医・専門医 等

【講師】 関根浄治先生 島根大学医学部歯科口腔外科学講座教授

●日時: 2017年9月9日(土) 19時30分~21時

●会場: マリンパレスさぬき 高松市福岡町2-3-4 TEL087-851-6677

●参加費: 会員 無料 未入会員 5,000円

●定員: 40名 (先着順)

お申し込みは香川県保険医協会まで Fax して下さい(9月9日) Fax 087-802-1336

| | |
|-----|-----|
| ご氏名 | 医院名 |
| ご住所 | |